

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

日本武尊・白鳥伝説

白鳥神社の祭神は伊邪那美命と日本武尊です。今回は日本武尊を深掘してみたいと思います。

白鳥神社由緒

仲哀天皇の御代 村名もなく只茫茫たる荒野の中に六戸の小家あり、一羽の巨大なる白鳥来たり 遙かに空中に舞うこと数日、人々奇異に思いをなす。白鳥翼を茂林に休む、これ今の「古木の森」と伝う。暫くして白鳥空高く飛ぶ、里人これ尋常の鳥でなく日本武尊の神霊であると思えり。白鳥一枚の白羽を落とす、人々これを拾い小箱に納め岩上に置きこれを祀る。



即ち白鳥社なり。里人白鳥の舞いし所を白鳥村と名づく。

これをもつ少しかみ碎きますと。

白鳥神社の歴史を辿ると神話の世界です。仲哀天皇の頃、大きな白鳥が羽を落としました。この羽は日本武尊の霊であろうと、それを拾い磐座に小さな祠を建てて祀りました。そして、そこを白鳥村と命名した。

(1) これは、西暦で推定すると約1800年前である。それから500年後に泰澄大師が現れます。泰澄は白鳥に姿を変えた姫神に示唆を受けます。白鳥の北に聖地あり、

一社を設けよと。そこを白鳥社として伊邪那美命を祀った。この事から、白鳥神社の祭り神は、日本武尊と伊邪那美命の二神であります。

紀元は1800年と1300年である。1800年は神話の世界で伝説的。1300年は歴史の世界でやや現実的と言えるか。と言つてふつに考えられます。

日本全国に白鳥神社と称する神社は111社あり、そのほとんどに日本武尊が祀られています。

日本武尊が東国平定に向かったのは景行天皇(110)のころです。帰り道、伊吹山にて大蛇にふれて痛み、伊勢に入り能褒野にて息絶えましたが、その時、尊は白鳥になって飛び去りました。白鳥の飛び来たったところ全て尊の霊場として祀ったのでしよう。

これが多くの地に、白鳥伝説を生んだ原点の様です。次に触れたいのは、日本武尊と鉄文化です。

日本武尊が祀られている所の多くに鉄文化が見られる。日本武尊が各地で戦い乍ら通った所が多い。

鉄文化の発達した所にはたたら文字が多くみられる。



ヤマトタケルの平定コースと鉄遺跡
-----「古事記」のコース
———「日本書紀」のコース
● 鉄遺跡

たたらとは鉄を熱する時に送る風の事で別名はふいごと呼ばれる。ふいごは陶磁器を焼く時にも使われる。

我が町・白鳥

に、立多羅(たつたら)と言う地名がある。そこからは陶磁器の破片が多く出ると言つ。又、長兵衛川の東側の井戸水には鉄さ

びを多く含んだソブ水が出る。地下に鉄を含んだ層があるのではないか。

白鳥伝説と鉄文化、そしてたたら、立多羅と伝説を証明する事実が出てくる。日本武尊は現実にここ白鳥に来たのではないか?これは伝説ではなく、事実ではないのか?夢の膨らむ歴史物語。もつと深堀がしてみたい。(この地図に、当白鳥神社は出て来ないが、未調査の為だろつと推察します)

秋祭りの裏方

3年間、コロナにより不自由な祭りになりましたが、520有余年続いた大神楽奉納は役者衆の熱意により、縮小しながらも続ける事が出来ました。コロナから明け今年も、例年通りの形に戻れました。天候にも恵まれ秋葉神社への奉納、悪魔祓いの町廻りでも、多くの皆様に見て頂けました。その際、お渡しするススキに結わえた縁起札も600枚総て、お受け取り頂きました。このお札を始め、この例祭に用いる御幣、駕籠飾り、子役の衣装の飾り等々は前日、社務所にて手作り準備致します。先輩総代の方々、神社に携わって下さった皆様のお力添えの賜物です。そこには伝統の技もあり、一朝一夕では出来ないものがあります。

最近、役者が履く、草履、草鞋を作る方が身を引かれ、



この先が心配であります。先輩がお元気な内に、その伝統技術を学び、自分達の手で、総てを賄つてゆければ、心のこもった祭りが出来るものと願つております。人口減少傾向が続く中、多くの問題が出つつあります。地域のシンボルであるお祭りに多くのご参加を頂き、心の拠り所となる様、英知を絞る時かと存じます。

す。皆様の暖かいご協力を衷心よりお願い致します。

松平 司君に捧げる



天高く黄金の穂が揺れる。秋祭りの初日がスタートした。一ヶ月に及ぶ稽古は厳しかった。神舞子(子役)の一人は、稽古半ばで離脱。ポッカリ穴が開いた。その穴は先輩の神舞子が埋めてくれた。6年生だが、根っからの祭り好き。小さい衣装はぎりぎり着られた。見事にピンチを救ってくれました。

午前中、神社大鳥居前で舞った。そこで異例の感謝状贈呈があった。昨年、太神楽のメンバーの一人が亡くなった。松平 司君(40) 23年に渡り、笛中心の奏者であった。市役所の職員であり真面目な男だった。昨年、血栓症で急逝。婚約者も決まっていたと聞く。

人生これからと言った時に。信じられないこの世の別れ。今日、ご両親には神社前に来て頂き感謝の意を伝えました。「今は亡き同志の功績を忍び、太神楽舞い始めそーろよあー！」神主の口上で、大神楽舞を奉納。

お母さんは、司君の遺影を胸に、お父さんは、感謝状を抱き、ご覧いただいた。万感胸に迫られたか、時折目頭を……。

傍で拝見した我々もグッと来るものがあった。同志を忘れない、素晴らしい仲間達。白鳥神社大神楽の連中に敬意と感謝。

520余年続く大神楽。それを担うに相応しいメンバー達だと感じた。そこに損得などは何も無い。伝統を繋ぐ心意気。祭りが大好きな男意気。そこに固い絆が結ばれるのだろう。いい秋祭りのスタートだった。

新嘗祭・十一月二十二日

白鳥神社の三大神事の一つです。三月の祈年祭に、そ

の年の豊穣を願い、九月の例大祭は豊穣を喜び、十一月の新嘗祭は豊穣に感謝し、神に報告する神事です。

三大神事には総代全員が礼服に威儀を正し挑みます。

昔は稲穂、新米をお供え戴きましたが今はご浄財を御奉納頂いております。今年496軒からお供えご奉納頂きました。神社の護持運営に宛てさせていただきます。誠にありがとうございました。

初宮参りと七五三神事

十一月三日午前九時半から四名の赤ちゃんの初宮神事を行いました。無事の出産誕生を神に報告し、この先の健やかな成長を祈願いたしました。

初宮参拝者

- 白鳥町六ノ里 田中基尊・奈央水 長女・水基
- 白鳥町白鳥 渡辺大輔・ちひろ 次女・やえ
- 白鳥町中西 澤崎善博・芳佳 三女・芽来
- 白鳥町白鳥 柿本拓也・祐梨香 長男・朔空



同日、十時半から、七五三神事を挙行。二十六名の元気なお子さんと御両親、御親族、百余名のご参拝を頂きました。小春日和の温かい日に晴れ着が眩しく映え、若いエネルギーを感じました。子供は地域の宝、国の命とも言えます。健やかなご成長を念じます。彼らは未来から

のお客さんです。皆で見守り、大事に育てましょう。おめでとございませう。(敬称略)

七五三参拝者

- 岡田 岳5・岡田 峻3 澤崎 詩4・寺田彩恋3



- 猪島希子7・猪島知世3
- 遠藤エマ7・遠藤二ナ4
- 茨木巴絵3・森下葉月6
- 森下比稀3・金子由梨加3
- 蓑島さい7・蓑島てん5
- 澤崎 悠3・池田瑛稀3
- 玉井誠也5・加我柚奈7
- 加我美琥5・加我千代3
- 稲葉れい7・稲葉ゆい3
- 櫻井りま5・櫻井りせ3
- 玉越啓恭3・柿本柚希3

令和五年十二月からの行事予定

- 12/17……新年初詣の準備、忘年会
- 12/24……縁起物受け入れ
- 12/31……新年初詣の準備、最終準備。
- 午後十時より徹夜初詣接待態勢に入る。
- 1/1……午前九時より拜殿にて歳旦祭
- 1/1~3……初詣参拝者接待く総代当番交代にて。
- 1/4……左義長・正月清算・あと片付け。
- 1/9……民間企業安全祈願神事
- 3/3……祈年祭・稲荷神社初午祭。年度末総会。
- 3/26……会計監査

冬季節、積雪状況により、屋根雪下ろし、除雪作業。

御寄進・ご奉仕

- 一、神饌白米二斗……曾我幸男様
- 一、社務所ふすま張替え……足立好教様
- 心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます

御朱印受付

ご希望の方は0575(82)4387・瀬上宮司まで (文責・瀬木)

